Information 2

47th World Congress of Surgery 2017に出席して

～ISS/SIC Best Poster Prizeを獲得～

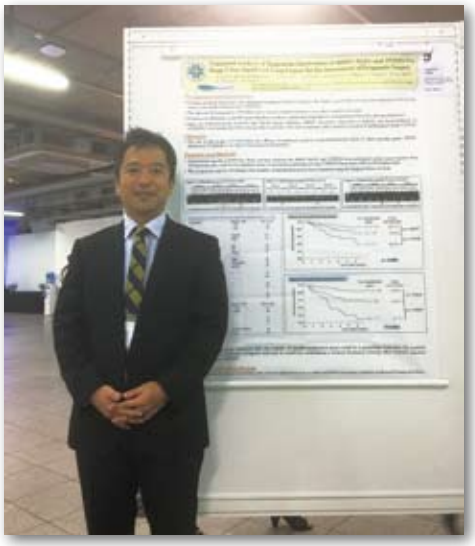
呼吸器外科医長　原田　洋明

8月13日から17日までスイスのバーゼルで開催された47th World Congress of Surgery 2017（第47回万国外科学会総会）に出席し発表してきました（写真①）。万国外科学会（International Society of Surgery：ISS/SIC）は、ノーベル医学生理学賞を受賞したスイスのテオドール・コッヘル教授によって1902年に創設された世界最古の国際外科学会です。今回、私の発表が本学会のISS/SIC Best Poster Prizeに選出されました（写真②）。

今回の発表は、肺癌手術後の患者さんにおける予後関連因子について、遺伝子異常をターゲットとした解析でした。肺癌は比較的早期に手術した場合であっても、残念ながら再発を来す患者さんは少なからず認められます。そのような再発リスクの高い患者さんを正確に選別できれば、術後のフォローアップを密にし、補助化学療法を追加することなどが考慮され、これにより効率的な医療の提供に繋がる可能性が高くなります。

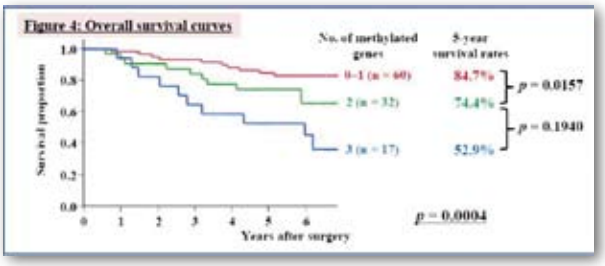
少し詳細を記します。術後病理検査でリンパ節転移を認めず、手術により完全切除がなされた肺癌症例を対象に、腫瘍組織からDNAを採取し、遺伝子エピジェネティクス異常であるメチル化の有無を解析し、予後関連因子となる分子標的マーカーを検出しました。これまでにDLX4、PCDH10、MDFIという遺伝子のメチル化異常が予後因子となる可能性について報告しており、今回はこれらを複合解析した発表でした。遺伝子メチル化異常がこれら3遺伝子すべてにおいて生じている場合、術後5年全生存率は52.9％であり、2遺伝子の場合は74.4％なのですが、1個以下の場合は84.7％でした（写真③）。また無病生存期間はそれぞれ、17.7％、56.3％、84.8％と統計学的に有意差を認めました（写真④）。

【写真①】

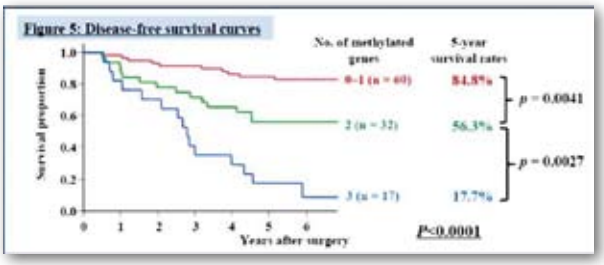


【写真②】

【写真③】



【写真④】

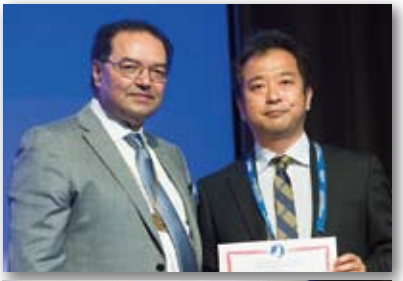


バーゼルから電車でのshort tripで雄大なヨーロッパアルプスを観光中（写真⑤）に、私の発表が「Best Poster Prize Winnerに選出されたので総会の場で表彰する」との通知が届きました。学会最終日の総会会場においてポスター部門と口演部門から一名ずつ壇上にあがり表彰されましたが、予想もしていなかった栄誉におどろくとともに少々緊張しました（写真⑥）。この表彰式の場で、私に声をかけてくださる日本人がおり、あの王貞治の主治医としても有名な北島政樹先生とすぐに気づきました。北島先生は、3人のみで構成される本学会の最高機関Court of honor（名誉会議）の一員であり、世界最高峰の医学雑誌「New England Journal of Medicine」における日本人2人目の編集委員でもあります。広島大学の学長選考委員長でもある日本で最も高名な外科医から「おめでとう」と握手され、心から感激しました。

今回の発表は、当院外科：宮本和明先生のご指導のもと、二人の前勤務先である呉医療センターで開始した研究の成果を報告したものです。現在、当院でも更に研究を継続・発展させていくために村上診療部長や万代臨床研究部長、柴田統括診療部長にも相談しつつ準備を進めているところです。

【写真⑤】

【写真⑥】



人事異動

採用

H29.9.1
耳鼻咽喉科医師
横江　裕幸

H29.10.1
内分泌・糖尿病内科医師
小出　純子

退職

H29.8.31　耳鼻咽喉科医長　大久保　剛